

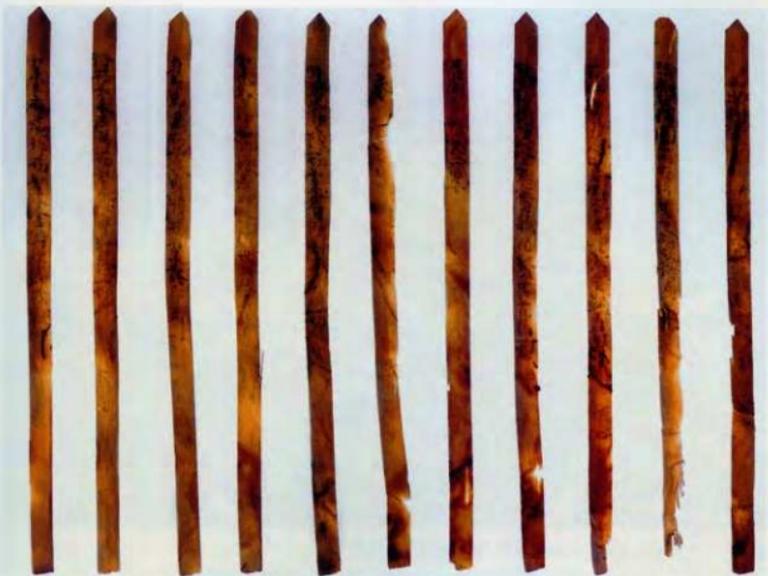
徳島県

埋蔵文化財センター年報

Vol.15 2003年度

2004

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



柿経（敷地遺跡）



田舟（寺山遺跡）



重清城跡遠景



尼塚古墳調査状況（後方はカニ塚古墳）

はじめに

本書は平成15年度に徳島県埋蔵文化財センターが実施した事業の概要をまとめたものであります。

当年度は、大規模事業の減少がさらに進み、遺跡調査数は17となりました。園瀬川河川改修に伴う寺山遺跡の調査では、平成14年度に一括埋納銭が出土しましたが、さらに下層からは古墳時代のムラが姿を現しました。加茂第一堤防に伴う中庄東遺跡の調査では、中世後期の屋敷地内での鍛冶 鑄造の様子が明らかになりました。徳島環状線(国府工区)の敷地遺跡では、旧河道から約2,300点ものお経を書写した柿経が出土しました。川辺で行われた供養について、生々しく語る資料として注目を浴びました。

また本年度からは、指定史跡等保存活用事業として、開発に伴わない遺跡の有効活用を目指す新規事業を開始しました。三加茂町合藏廃寺跡遺跡、美馬町重清城跡、鳴門市カニ塚古墳 尼塚古墳の3遺跡を対象とし、小規模な調査ながら大きな成果を上げました。

普及事業では、郷土文化教育教材としてDVDを制作しました。実物の土器 石器などをまとめた教材とセットにして出張授業などへの活用を図ります。普及 啓蒙活動は今後さらに重要度が増し、体験学習の充実やこれまで蓄積した成果の有効活用を図る必要性が高まることでしょう。

最後になりましたが、関係各位並びに関係機関に御礼申し上げますとともに、今後とも一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
理事長 松村 通治

目 次

I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要	4
II 平成15年度事業概要	5
III 調査事業報告	9
県単独事業関連発掘調査	
敷地遺跡	13
寺山遺跡	15
田宮遺跡 守護町勝瑞遺跡	17
町口遺跡	18
庄遺跡	19
外部委託事業関連発掘調査	
中庄東遺跡	20
宝田出口遺跡	22
試掘調査	
八万大山遺跡	23
圃場整備事業関連発掘調査	
木岐遺跡 椿地遺跡 業池谷遺跡	24
宮免遺跡	25
指定史跡等保存活用事業	
合藏庵寺跡遺跡	27
重清城跡	28
カニ塚古墳 尼塚古墳	29
遺跡地図整備事業	30
IV 整理事業報告	31
V 埋蔵文化財センターの活動	32

例 言

- 1 本書は財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成15年度事業をまとめた年報である。
- 2 III調査事業報告に関する地形図は国土地理院発行1/50,000地形図を転載したものであり、各図に図幅名を記した。ただし、遺跡地図整備事業に関する地形図は1/25,000を転載した。
- 3 III調査事業報告の概要は各担当が執筆し、その責を文末に記した。

平成15年度 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの組織

役員

理事長	
松村 通治	県教育長
副理事長	
大西 完治	県教育次長
専務理事	
本浄 敏之	
常務理事	
西村 和博	県教育委員会参事
理事	
岡田 一郎	海南町立博物館長
日下 雅義	徳島文理大学文学部長
松崎 敏則	県教育委員会教育総務課長
塩原 誠志	県教育委員会教職員課長
福家 清司	県教育委員会文化財課長
梶原 政明	県土整備部県土整備課長
監事	
高木 直規	県副出納長
多田 実	県教育委員会生涯学習課長

職員

所長 (専務理事が兼務)		
本浄 敏之		
事務局長 (常務理事が兼務)		
西村 和博		
総務課		
次長兼総務課長	山本 高史	
主査兼庶務係長	坂尾 俊一	
事務主任	布川 純子	鈴木 智栄
調査課		
調査課長	新居 文和	
主査兼調査第一係長	富本 輝仁	
主任研究員	栗林 誠治	
研究員	大橋 育順	樋谷 久代
	森岡 基司	武中 宏之
	宮本 格	島田 豊彰
	谷口智恵子	井藤 良雄
	采 康雄	篠原久仁子
	小川 勝幸	林 賢彦
	岩佐 正人	須崎 一幸
	庄司 俊也	
調査第二係長	藤川 智之	
研究員	前田 綾博	
設計係長	原田 敏夫	
整理普及課		
整理普及課長	島濑 賢二	
整理係長	貞野 雅巳	
主任研究員	久保脇美朗	小泉 信司
	氏家 敏之	原 芳伸
研究員	豊田 周作	大北 和美
	田川 憲	折野 佳子
	北山 洋子	原井 康子
	前田 隆司	植地 岳彦
	近藤 玲	山本 和弘
	棚次美和子	幸泉 満夫
	喜多 啓二	田所 賢治
	高橋 栄子	
普及係長	関本 秋夫	



I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要

1 設立の目的

財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、徳島県内における埋蔵文化財（出土した文化財を含む。）の調査及び研究を行うとともに、文化財の保護意識の啓発普及を図り、もって地域文化の振興に寄与することを目的とする。

2 設立年月日

平成元年4月1日（徳島県教育委員会指令教文第71号で設立許可）

3 事業の内容

- (1) 埋蔵文化財の調査、研究
県、国の機関の実施する公共開発事業で、その委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査、保護の調査研究を行う。
- (2) 出土した文化財の整理、保存
- (3) 埋蔵文化財の活用
- (4) 保護意識の啓発普及
- (5) 埋蔵文化財調査技術の指導等
- (6) 埋蔵文化財の資料収集、保存、刊行
- (7) その他

4 資産及び会計

- (1) 資産構成 設立当初の財産、寄附金品、事業収入、資産収入、その他収入
- (2) 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- (3) 基本財産 10,000千円（全額 徳島県が出資）
- (4) 決算額 1,519,335,805円（平成15年度）

5 役員及び職員

- (1) 理事10名（定数は13名以内）
- (2) 監事2名
- (3) 常勤職員46名
- (4) 非常勤職員114名

6 施設

- (1) 埋蔵文化財総合センター本館
 - ① 所在地 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2
 - ② 敷地面積 16,093㎡
 - ③ 建物 鉄筋コンクリート造2階建（一部鉄骨造）2,554.05㎡
事務室、展示室、図書資料室、情報処理室、分析室、収蔵庫等
- (2) 整理作業棟
 - ① 所在地 徳島県板野郡板野町犬伏字東谷6番16
 - ② 敷地面積 4,133㎡
 - ③ 建物 鉄筋コンクリート造2階建（一部鉄骨造）1,105.63㎡
復元室、作業室、トレース室

Ⅱ 平成15年度事業概要

1 理事会の開催について

(1) 第53回通常理事会

開催日	平成15年6月30日(月)
議案	平成14年度事業報告について 平成14年度事業収支決算について 平成14年度未処分剰余金の処理について

(2) 第54回通常理事会

開催日	平成16年3月30日(火)
議案	平成15年度事業収支予算の補正について 平成16年度事業計画案について 平成16年度事業収支予算案について 組織規程の改正について 就業規程の改正について 役員の選任について

2 事業の実施状況について

(1) 埋蔵文化財発掘調査

徳島県から委託を受け、次の発掘調査を行った。

- | | | |
|----------------------------|-------------------|---------|
| ① 加茂第一地区堤防工事に伴う埋蔵文化財調査 | | |
| 三加茂町 中庄東遺跡 | 発掘 | 27,997㎡ |
| ② 徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財調査 | | |
| 徳島市 八万犬山遺跡 | 試掘 | 627㎡ |
| ③ 一般国道55号日和佐道路関連埋蔵文化財調査 | | |
| 由岐町 木岐遺跡 | 試掘 | 250㎡ |
| ④ 桑野川浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財調査 | | |
| 阿南市 宝田出口遺跡 | 試掘 | 1,258㎡ |
| ⑤ 徳島県事業に伴う埋蔵文化財調査 | | |
| 建設事業の工事予定箇所 | で43,344㎡の調査を実施した。 | |
| 道路改築事業(徳島環状線国府工区)関連埋蔵文化財調査 | | |
| 徳島市 敷地遺跡 | 発掘 | 30,076㎡ |
| 道路改築事業(宮川内牛島停車場線)関連埋蔵文化財調査 | | |
| 吉野町 町口遺跡 | 発掘 | 1,006㎡ |
| 広域基幹河川改修事業(園瀬川)関連埋蔵文化財調査 | | |

徳島市	寺山遺跡	発掘	8,880㎡
旧吉野川流域下水道建設事業関連埋蔵文化財調査			
藍住町	守護町勝瑞遺跡	発掘	122㎡
緊急地方道路整備事業（常三島中島田線）関連埋蔵文化財調査			
徳島市	田宮遺跡	発掘	1,313㎡
県単公園工事（スポーツリフレッシュ）関連埋蔵文化財調査			
徳島市	庄遺跡	発掘	177㎡
中山間地域総合整備事業（生産基盤型）新野地区関連埋蔵文化財調査			
阿南市	葉池谷遺跡	発掘	500㎡
県営圃場整備事業（福井川地区）関連埋蔵文化財調査			
阿南市	椿地遺跡	発掘	250㎡
県営圃場整備事業（坂野地区）関連埋蔵文化財調査			
小松島市	宮免遺跡	発掘	1,020㎡
指定史跡等保存活用事業			
三加茂町	合藏廃寺跡遺跡	発掘	254㎡
美馬町	重清城跡		
鳴門市	カニ塚古墳 尼塚古墳		
遺跡地図整備事業			
遺跡精密分布調査		分布調査面積	44,790km ²
調査地 鳴門市、板野郡、阿波郡			
鳴門市川崎城跡		試掘	8㎡
(合計 発掘調査面積 71,595㎡		試掘調査面積 2,143㎡)	

(2) 出土埋蔵文化財整理

徳島県から委託を受け、次の出土埋蔵文化財の整理業務を行った。

① 四国縦貫自動車道（美馬～川之江）建設関連埋蔵文化財整理業務

9 遺跡からの出土埋蔵文化財 1,557箱の整理をした。

お塚	西屋敷	遺跡	コンテナ	73箱の整理作業
大谷尻		遺跡	コンテナ	79箱の整理作業
東原		遺跡	コンテナ	50箱の整理作業
荒川		遺跡	コンテナ	90箱の整理作業
西原		遺跡	コンテナ	141箱の整理作業
井出上		遺跡	コンテナ	185箱の整理作業
相知		遺跡	コンテナ	80箱の整理作業
大柿		遺跡	コンテナ	859箱の整理作業

② 四国横断自動車道（板野～鳴門）建設関連埋蔵文化財整理業務

6 遺跡からの出土埋蔵文化財 140箱の整理をした。

桧はちまき山	遺跡	コンテナ	39箱の整理作業
--------	----	------	----------

松高麗谷	古墳群	コンテナ	11箱の整理作業
西山谷	古墳群	コンテナ	15箱の整理作業
日開谷西(大代古墳)	古墳群	コンテナ	12箱の整理作業
辺露	遺跡	コンテナ	32箱の整理作業
カネガ谷東(カネガ谷東遺跡)	古墳群	コンテナ	31箱の整理作業
③ 徳島南環状道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査等			
矢野(1群)	遺跡	コンテナ	280箱の整理作業
④ 徳島県等よる出土埋蔵文化財整理			
5遺跡からの出土埋蔵文化財			840箱の整理をした。
県立城東高等学校校舎改築事業関連埋蔵文化財整理業務			
中徳島町1丁目	遺跡	コンテナ	280箱の整理作業
県立文学書道館整備事業関連埋蔵文化財整理業務			
中前川町2丁目	遺跡	コンテナ	140箱の整理作業
道路改築事業(県道宮川内牛島停車場線)関連埋蔵文化財整理業務			
町口	遺跡	コンテナ	70箱の整理作業
道路改良事業(県道出口太刀野線)関連埋蔵文化財整理業務			
中庄東	遺跡	コンテナ	140箱の整理作業
県代行緊急地方道路整備事業(町道光下新町線)関連埋蔵文化財整理			
大柿	遺跡	コンテナ	210箱の整理作業
	総整理コンテナ数		2,817箱

(3) 発掘調査報告書の発刊

発掘調査結果を報告書として刊行した。

四国縦貫自動車道(美馬～川之江)建設関連埋蔵文化財整理業務			
東原遺跡	500部作成		
四国縦貫自動車道(美馬～川之江)建設関連埋蔵文化財整理業務			
大柿遺跡	500部作成		
道路改築事業(宮川内牛島停車場線)関連埋蔵文化財整理業務			
町口遺跡	500部作成		

(4) 普及・啓発事業

- ① 平成14年度に発掘した遺跡からの主要な出土品を展示し、県民に紹介した。
- ② 埋蔵文化財移動展を小松島市立江町「ふれあいセンター立江」を会場に開催した。
- ③ 発掘調査成果報告会及び関連の講演会を開催した。
- ④ 発掘現場における普及啓発活動として、寺山遺跡ほか4遺跡において現地説明会を実施した。また遺跡体験見学会、近隣学校による見学を受け入れた。
- ⑤ 市町村埋蔵文化財担当職員研修会を実施した。

3 収支決算

財団法人徳島県埋蔵文化財センターの、平成15年度の収支決算を前年度と比較すると以下のとおりである。

1 収入の部

(単位 円)

科 目	平成14年度	平成15年度	比較増△減額	備 考
1 基本財産運用収入	1,008	3,000	1,992	
2 事業収入	1,769,025,000	1,512,832,400	△256,192,600	
3 特定預金取崩収入	0	4,276,120	4,276,120	
4 雑収入	30,868	11,496	△19,372	
5 繰越金	5,657,090	2,212,789	△3,444,301	
合 計	1,774,713,966	1,519,335,805	△255,378,161	

2 支出の部

(単位 円)

科 目	平成14年度	平成15年度	比較増△減額	備 考
1 事業費	1,641,581,200	1,390,076,324	△251,504,876	
2 管理費	86,887,147	89,887,656	3,000,509	
3 特定預金支出	4,624,030	3,986,940	△637,090	
4 消費税	39,408,800	33,157,600	△6,251,200	
合 計	1,772,501,177	1,517,108,520	△255,392,657	

3 平成15年度収支差額

収入額合計	1,519,335,805 円
支出額合計	1,517,108,520 円
次期繰越額	2,227,285 円

Ⅲ 調査事業報告

平成15年度は、同年4月1日付で締結した業務委託契約書に基づき、指定史跡等保存活用事業 遺跡地区整備事業を含め、それぞれの事業に関連した17の調査を実施した。前年度に引き続き、外部委託事業に伴う発掘調査はさらに減少傾向にあり、事業規模の縮小が顕著となった。

昨年度までの事業の継続で寺山遺跡 敷地遺跡 中庄東遺跡の発掘調査が実施された。

寺山遺跡では、平成14年度調査地点の下層から遺構面が検出され、弥生時代終末期～古墳時代前期、古墳時代後期の2時期の集落および流路が確認された。狭小地での集落の連続や流路内の環状の施設が目される。

敷地遺跡では、南北に長い調査区を対象とした。広範囲に古代から中世にかけての水田面を検出した。規模の大きい畦畔や水路などが形成され、その変遷過程などが判明した。水田面の下層には古墳時代の集落が並び、堅穴住居29棟、土壌墓550基などが検出された。国府設置前段階の姿を示す遺構群である。現在の西大堀川沿いの調査区では、河道の傾斜面上から柿葎2,289点が出土した。明瞭な墨痕があり、般若理地経を中心とした経文が読みとれる。供養の様子を生々しく語る好資料である。

中庄東遺跡は、一連の同事業の最終年度となり、東寄り調査対象とした。石積や溝により区画された室町時代の屋敷跡が確認された。西の調査区でも14世紀代の区画溝を伴う屋敷地が調査されており、文献にみる金丸庄の解体過程を示すものと理解される。東の屋敷地の周辺地点では、鑄造や鍛冶に伴う遺構 遺物が検出された。溶解炉、農具 調理具の鋳型および鉄滓と、これらを廃棄した土坑である。いずれも比較的規模の大きく、継続的な操業形態が推定されることから、それぞれの工人集団が屋敷地の配下において活動をしていたことが判る。

指定史跡等保存活用事業は平成15年度より実施された新規事業である。これまでの開発に対応する事前調査としての発掘とは異なり、周知の遺跡であっても範囲や年代など基礎的なデータを蓄積することによって、将来的により有効な遺跡の活用を意図するものである。本年度は3遺跡（三加茂町合藏庵寺跡遺跡 美馬町重清城跡 鳴門市カニ塚古墳）の調査を実施した。合藏庵寺跡遺跡は瓦の散布から寺院の可能性が想定されており、寺院としての特定は不十分ながら遺構 遺物を確認し、周辺地点への期待をつないだ。重清城跡は、長宗我部氏の四国征伐時に合戦の舞台となった中世城郭である。二重の堀と土塁の状況を確認し、遺物の年代が伝承などを裏付けする成果を得た。カニ塚古墳 尼塚古墳は、レーダー探査および発掘調査により周濠を確認し、周濠内からはそれぞれの古墳に樹立された埴輪などが出土した。大代古墳（鳴門市大津町）の系譜に連なる阿波最東端の首長墓として位置づけられる。

その他の調査で明瞭な遺構の確認されたものとして、業池谷遺跡 庄遺跡 町口遺跡などがある。業池谷遺跡で縄文時代の堅穴住居が出土した。サヌカイト チャート製の石器 剥片が出土しており、石材ごとの使い分けが判明した。庄遺跡では、断片的な調査ながら弥生時代中期～後期の堅穴住居7棟や土器溜まりが確認された。

圃場整備事業関連埋蔵文化財発掘調査業務一覧

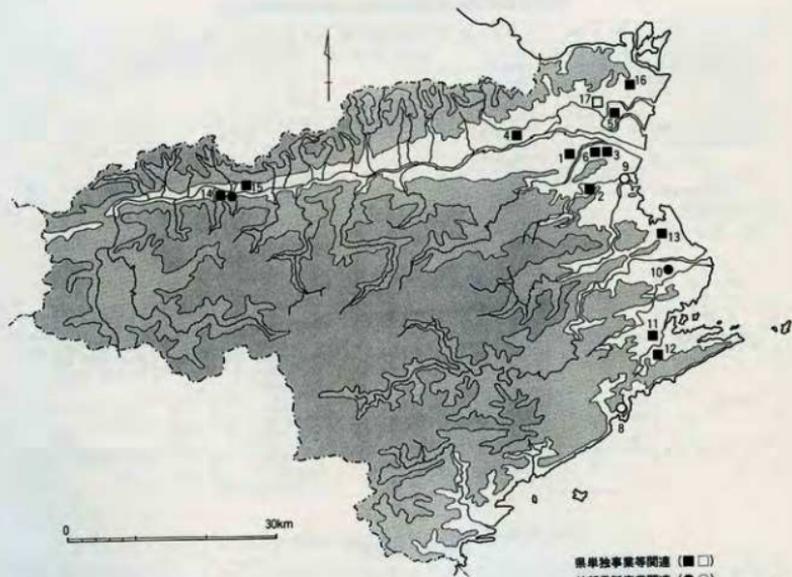
No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
11	粟池谷遺跡 (中山間地域総合整備事業-生産基盤型)	阿南市新野町粟池谷2-1他	500㎡ (調査面積) 500㎡ (延べ面積)	H15.8.1~8.31	○縄文時代	竪穴住居 柱穴	縄文土器 石器 鉄製品
12	橋地遺跡 (県営圃場整備事業-採井川地区)	阿南市福井町中内66-1他	250㎡ (調査面積) 250㎡ (延べ面積)	H15.11.1~11.30	○鎌倉時代	なし	須恵器 土師器 瓦器 石器 陶器 磁器
13	宮免遺跡 (県営圃場整備事業-坂野地区)	小松高市大林町宮免152-1他	1,020㎡ (調査面積) 1,020㎡ (延べ面積)	H16.1.5~2.29	○平安時代 ○鎌倉時代	溝 井戸 土柱穴 流路 掘立柱礎物	須恵器 土師器 瓦器 陶器 磁器 木製品

指定史跡等保存活用事業一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
14	合藏庵寺跡遺跡	三好郡三加茂町中庄669-2他	120㎡ (調査面積)	H15.10.1~12.2	弥生時代 ○古墳時代 ○奈良時代 鎌倉時代	柱穴 溝 堅穴住居	弥生土器 須恵器 土師器 瓦器 陶器 鉄製品
15	重清城跡	美馬郡美馬町重清字城52-1他	84㎡ (調査面積)	H15.12.1~ H16.1.31	鎌倉時代 ○室町時代 江戸時代	内堀 外堀 堀切 土塁	土師器 陶器 磁器 金属製品
16	カニ塚古墳 尼塚古墳	鳴門市大津町大代1121-2他	50㎡ (調査面積)	H16.2.1~3.31	弥生時代 ○古墳時代 鎌倉時代	周壕 (カニ塚古墳) 尼塚古墳	埴輪 須恵器 土師器 瓦器

遺跡地図整備事業

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
17	分布調査	鳴門市 板野郡 (藍住町 板野町 土板町 吉野町 土成町) 阿波郡 (市場町 阿波町)	44,790㎡	H15.4.1~ H16.3.31			
	川崎城跡遺跡【武祖】	鳴門市大麻町川崎394	8㎡ (調査面積) 8㎡ (延べ面積)	H15.12.24	不明	溝	陶器



発掘調査地

県単独事業等開道 (■ □)
 外部委託事業開道 (● ○)
 ※黒丸の記号は本編、白丸きは試掘地点

調査

水

遺

野
 SB

しきじ
敷地遺跡

所在地 徳島市国府町敷地鶴ノ本80他
調査期間 2003年4月1日～2004年3月31日
担当者 榎谷 宮本 井藤 武中 森岡
 須崎 林 篠原 庄司 大橋

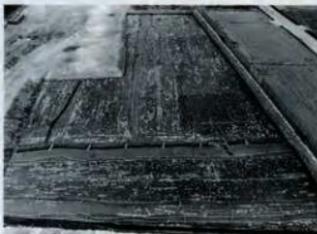


1 調査地点の位置 (川島)

調査概要 本遺跡は吉野川と鮎喰川によって形成された沖積平野上の標高5～6mに位置する。遺跡の中央部を西大堀川が東流しており、その両岸に若干の微高地が形成されている。この微高地上で古墳時代後期の集落が検出された。また周辺の低地部分には、平安時代初期の段階で、畦畔によって水田区画が形成されていたことも明らかとなった。

本年度の調査区は、平成11年度に確認された古墳時代後期の集落の北西側に隣接した部分である。ここでは平安時代から鎌倉時代の水田面と、古墳時代後期の遺構面が確認された。また、旧西大堀川の北岸からは「柿経」が出土した。

水田面 3 時期の水田面を検出した。最下層の水田は9世紀代に構築された幅約1～3mの大畦畔によって区画され、幅50cm程度の小畦畔で区切られていた。小畦畔は各時期で変更されていたが、大畦畔は鎌倉時代に埋没するまで機能していたと考えられる。畦畔はN-10°-Wとそれに直交する方向に構築されている。また、東西の大畦畔を境に、北側は南北方向、南側は東西方向に長い地割りであったことも判明した。この大畦畔の北側には、排水溝と見られる深さ約40cmの溝があり、南側には浅い溝が掘られていた。



2 水田跡検出状況

遺構面 古墳時代後期の遺構面からは竪穴住居29棟、掘建柱建物3棟、土墳墓約550基、溝状遺構約120条が検出された。

竪穴住居 SB2002 竪穴住居のうち竈が残存していたものは24軒であった。SB2002は一辺約6mの隅丸方形の住居で、深さ約50cmである。北西方向に



3 第2遺構面完掘状況

竈が設置されている。竈から北西方向に約1mの標道をもつ。柱穴は直径約60cmで、他の住居と比べて大規模なものである。またSB2007では、住居の床及び竈内から輪の羽口が出土し、床面中央部には砥石が据え付けられていたことから、鍛冶関連の施設であった可能性がある。



4 SB2002完掘状況

土 墳 墓

土墳墓と推定される平面形が長軸1.5m、短軸1mの長方形の遺構が多数検出された。ほとんど遺物が含まれていないため時期は不明であるが、遺構内埋土や遺構の配置から大きく2時期に分類できる。新段階のものは周辺の地割りの方向に則って列をなしているのに対し、古段階のものは方向は一定しない。

柿 経

柿経は檜の板に経文を書写したもので、破片を含めて2,289点が出土した。このうち文字を判読できたものは765点である。15世紀後半以降に埋没した旧西大堀川の岸部分の堆積層から出土した。川の流れに沿って小破片が散乱した状態で出土したが、大部分の柿経は束状のまとまりで出土した。



5 柿経出土状況

出土した柿経は長さ約28cm、幅1.2cm、厚さ0.5mmの板の一端を圭頭状にしたもので、片面に文字を書いている。経文は大部分が「般若理趣経」で、「妙法蓮華経」の一部と「南無阿弥陀仏」と書かれたものが多数混在していた。文字は一枚に17字ずつ書かれており、20枚毎に漢数字がふられていた。また同一部分を書写したものが4枚あり、少なくとも4組の柿経が存在していたと推測される。

ま と め

今年度で敷地遺跡の大部分の調査は終了し、西大堀川の兩岸で古墳時代後期の集落を確認した。今回の調査は南側の集落の北東部にあたり、住居跡の配置から集落は西の微高地上に広がっていると推定される。

「柿経」の出土は、県内では徳島市中島田遺跡について2例目であるが、大量に出土したのは初めてであり、中世の信仰を知る上で貴重な資料となる。
(大橋)



6 出土遺物 (柿経)

寺山遺跡

所在地 徳島市八万町寺山71地
 調査期間 2003年4月1日～2003年8月31日
 担当者 林 篠原 前田綾 藤川

調査概要 徳島市南部を流れる園瀬川の自然堤防上に立地する。平成14年度は古代から中世の遺構面を調査し、室町期の一括埋納銭の出土などの成果があった。平成15年度の調査では、古墳時代後期の遺構面と自然流路、南側 東側の地点（6区）を対象とした。

第4遺構面 東西の2条の自然流路（SR4001 4002）に挟まれた幅約50mに生活面が残存していた。竪穴住居43棟 土坑などを検出した。住居同士は互いに切り合った状態であり、頻繁な建替えが行われた様子が分かる。したがって住居の全体が調査されたものは少ない。

竪穴住居は一辺約5mの方形で、4本の主柱穴をもち、北あるいは西側の壁沿いに竈を設け、壁の外側には煙道が伸びる。

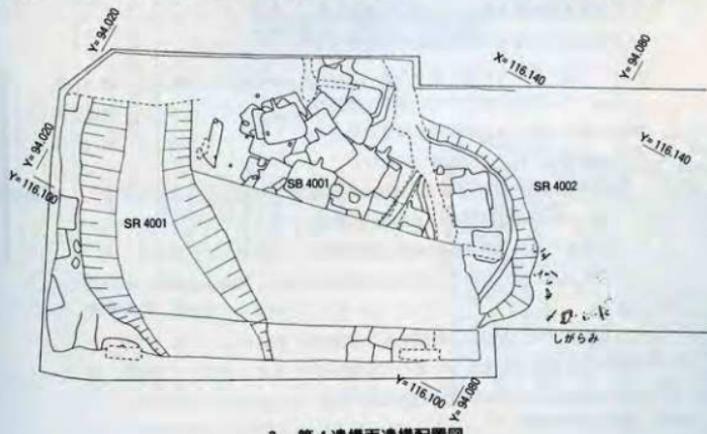
1号住居 SB4001 一辺5.85m×4.58mの隅丸方形プランの住居で、北側に竈が作りつけられ、煙道が約70



1 調査地点の位置（徳島）



2 SB4001竈完掘状況



3 第4遺構面遺構配置図

自然流路
SR4001・
SR4002

cm伸びる。主柱穴が4基床面より掘込まれ、貼床をもつ。竈内には支脚として土師器の甕が伏せられ、焚き口部分は熱により赤化していた。古墳時代後期後半に位置づけられる。

ともに南北方向の流路で、北側からの流れとみられるもの。SR4001は幅14m、SR4002は東側をさらに古代の流路に切られ不明。弥生時代終末期～古墳時代後期の遺物が大量に廃棄されていた。SR4002には、しがらみが設けられていた。建築材を転用した杭と横材からなる。北側からの流れを南と南西方向に分流制御する機能をもったものである。

SR4001出土の槽は全長2mを超える大形のもので、長方形の本体の四隅に把手を削り出す。割竹形の断面形状で、稲藁などの運搬に用いられる田舟と考えられる。

第5遺構面

弥生時代終末期の住居7棟、古墳時代前期の住居12棟が切り合った状態で検出された。

住居は平面形が隅丸方形で一辺4m前後、主柱穴は4基で、貼床や炉の痕跡が不明瞭ながら認められる。全体に出土遺物は少ない。

まとめ

弥生時代以降の各年代の流路と遺構面が検出されたことにより、集落の発展状況が判明した。弥生時代終末期から古墳時代後期にかけては流路に挟まれた狭い範囲で集落が営まれる。住居の建替えが繰り返される。

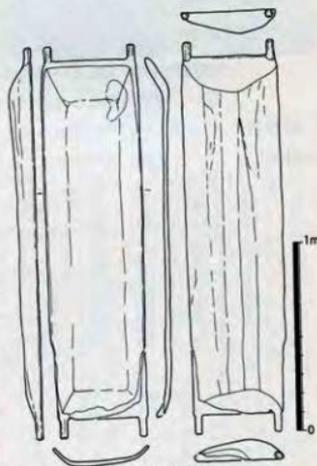
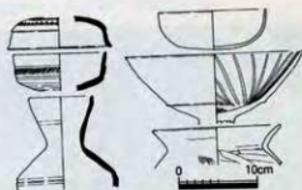
奈良～平安時代にかけては、遺構遺物ともやや密度が粗で、この段階に建立が想定される金剛光寺に結びつく成果は特にない。

鎌倉～室町時代にはさらに生活面が拡大し、13～14世紀の遺構がもっとも多い。銭貨の一括埋納や基壇状の遺構がある。商工業的にも発展がみられ、寺院などを核に発展を遂げる。

中世後半以降、遺構数が激減する。近世初頭には、園瀬川を「寺山」の南から北側へ付け替えたとされており、遺跡の状況と一致する。
(藤川)



4 自然流路



5 出土遺物

た みや 田 宮 遺 跡

所在地 徳島市南田宮3丁目2他
調査期間 2003年6月1日～8月31日
担当者 須崎 庄司



1 調査地点の位置 (徳島)

遺跡概要 本遺跡は鮎吹川と田宮川に挟まれた標高2mの沖積地に位置する。西側に広がる中島田遺跡は中世の大規模集落として知られる。田宮遺跡としては第5次調査に当たり、これまで中世の遺構・遺物が確認されている。

調査概要 1区では室町期以降とみられる遺構面を検出した。SD1014では、シジミを中心とした貝殻が含まれていた。

2区では2時期の遺構面が確認され、第2遺構面では溝・土坑・小穴が検出された。溝(SD2001)は瓦器・青磁が出土し、直角に曲がることから区画目的の可能性がある。

まとめ 今回の調査での遺構の密度は薄いのが、微高地上の集落の縁辺をとらえたという点で遺跡の全容に近づく結果であった。(須崎)



3 2区西側遺構完掘状況

しゅごまちしょうずい 守護町勝瑞遺跡

所在地 板野郡藍住町勝瑞字西勝地76-1他
調査期間 2003年6月1日～6月30日
担当者 林 篠原

調査概要 本調査は国史跡守護町勝瑞遺跡の周辺にあり、町屋の一角に復元される地点である。

2ヶ所の調査地点があり、1区では大正時代以降の護岸とみられる石積みを検出したのみである。木製品などを伴う。2区では、古代～中世とみられる堆積層を精査したが、遺構・遺物ともに非常に希薄であった。

以上の結果から調査地点は、町屋周辺の流路や耕作域であったと推定される。(林)



1 調査地点の位置 (徳島)

まちぐち 遺跡

所在地 板野郡吉野町西条字町口38他

調査期間 2003年9月1日～10月31日

担当者 須崎 庄司

調査概要 吉野川下流北岸の後背湿地に面した、標高約13mの微高地上に位置する。平成10年度より続く第6次調査にあたる。これまでの調査で、平安時代～室町時代を中心とした遺構遺物を確認している。

遺構面は2面確認できた。第1遺構面では溝2条、土坑2基、小穴2基を確認し、第2遺構面では弥生土器を含む土坑1基、須恵器を含む溝1条、土師器を含む土坑1基を確認した。

主な遺構

SK2001は、短軸方向約70cmの隅丸方形の土坑である。長軸方向は東側が調査区外にのびているが、約80cm程度と推測される。深さは約35cmが残存していた。壁面は大部分が焼土で覆われ、底面には炭が一面に広がっている。少量の土師器片が出土したのみで、遺物は少なかった。

SK2002は、調査区内で確認した長軸約1.3m、短軸約1m、深さ約15cmの隅丸方形の土坑である。東側は調査区外にのびている。弥生土器片が多く出土した。

まとめ

弥生時代から平安時代までの遺構が同一面で確認され、かつその上層に堆積する包含層には、古墳時代から平安時代までの遺物が含まれていることは、この地に安定的に生活が営まれたのではなく、洪水と削平を繰り返した結果と考えられる。

今回の調査は、狭い調査区の中を深く掘り下げたために、調査区域は狭くなったが、弥生時代にはすでに人びとの生活が営まれており、その後継続的な生活の痕跡が確認できたという点においては、重要な成果が得られたと言える。
(須崎)



1 調査地点の位置 (川島)



2 第2遺構面完掘状況



3 SK2002検出状況

しょう 庄 遺 跡

所在地 徳島市庄町1他
調査期間 2004年2月1日～2004年2月29日
担当者 林 篠原

遺跡概要 庄遺跡は眉山北麓の沖積地上に立地する。周辺には、鮎吹遺跡 名東遺跡 南庄遺跡など吉野川下流域を代表する弥生時代集落が営まれる。

調査地点は県営蔵本球場のグラウンド内にあたり、水路敷設部分の遺構面と下部の堆積状況の確認を目的とした。

調査成果 トレンチ主体の調査であるが、7棟の竪穴住居 溝をはじめ多くの遺構を検出した。住居はいずれも平面プランが円形で、弥生時代後期のものが多い。中期に属する2号住居(SB1002)では、サヌカイト製の石器 剥片が多量に出土したことより、石器製作を行っていたことが判る。

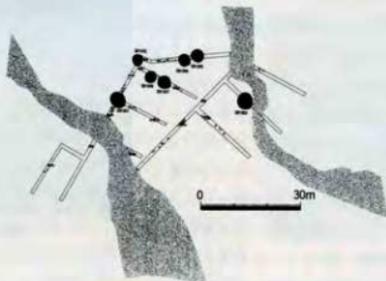
まとめ 弥生時代中期～後期の遺構を多数検出し、集落の状況を明らかにした。また、下層に弥生時代前期の遺構面が確認された。この時期の遺構は、東に隣接する徳島大学蔵本キャンパス構内に展開することが知られ、その広がりを知る上で注目される。(林)



1 調査地点の位置(徳島)



2 SB1003遺物出土状況



3 遺構配置及び集落復元図

なかしょうひがし 中庄東遺跡

所在地 三好郡三加茂町中庄169-1他
調査期間 2003年4月1日～2004年3月31日
担当者 島田 富本 岩佐 井藤 采 小川
 谷口 篠原

調査概要 本遺跡は吉野川中流域南岸、三加茂平野部の北東に位置し、標高約65mの自然堤防上に営まれた古代から近世にかけての集落遺跡である。98年度からの調査により、和同開珎丸柄 唐式八花鏡 鏡像などが出土し、7世紀の竪穴住居や9世紀の条里溝、2000基をこえる土壌墓が検出されている。また調査地の西側で一辺125mの方形区画屋敷地(14世紀)が確認されており、金丸庄荘官の屋敷地ではないかと考えている。今年度は遺跡の北東端にあたる部分で、幅40m東西600mの範囲を東から順に1区から7区まで分割して調査を行い、遺構面を2面確認した。

主な遺構 第1遺構面では室町時代を中心に鎌倉 江戸時代の遺構を検出した。7区では室町時代の方形区画屋敷地が検出され、同時期とみられる鋳造関連遺構や鍛冶関連遺構が検出された。第2遺構面では奈良～平安時代初めにかけての遺構を検出した。なかでも土壌墓は約400基を検出している。また今年度の調査では明瞭な条里遺構は検出できなかった。

方形区画屋敷地 7区西端部で検出された東西36mの屋敷地である。東西を幅約1mの浅い溝、北側を高約50cmの石積みによって長方形に区画している。屋敷地内では掘立柱建物が少なくとも5棟復元できる。SA1006は東西5間(10.2m)、南北3間(4.2m)で、これまでで最も大きな掘立柱建物である。屋敷地内からは埋甕遺構や祭祀土坑が検出され、出土遺物から15～16世紀にかけて営まれたとみられる。

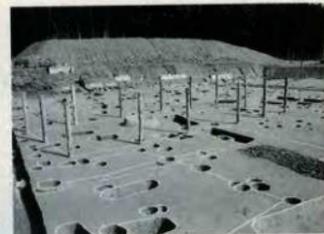
鋳造関連遺構・遺物 7区東側で、鉄製品の溶解に用いられた溶解炉や鋳造に用いられた鋳型が、土坑や小



1 調査地点の位置(池田)



2 方形区画屋敷地



3 掘立柱建物 SA1006

穴、溝に廃棄された状況で出土した。

溶解炉はいわゆる飯炉で、内面には滓が付着する。滓が層状を呈している部分があり、複数回使用されたとみられる。炉は分割成形され、繋ぎ目にはクライという接着土が確認できる。鋳型は真土製で、鋤先 鍋 鋸口が確認された。鋤先の鋳型は縦30cm、横18cm、厚さ5.5cmの板状で、上部には湯口とみられる凹みがある。裏面には「」や「〇」などの記号が確認できる。数個体分が出土している。鋸口の鋳型は、口から外区にかけての部分の確認でき、復元径は約30cmとなる。

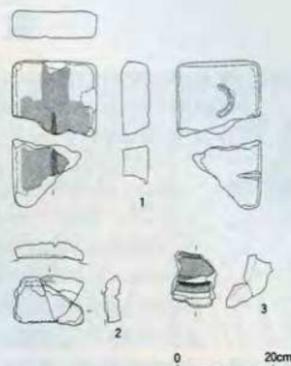
出土した鋳型から農具 調理具といった小型鉄製品を生産していることがわかる。このことから職人が出張してくる出先ではなくある程度定住して営んだとみられる。

鍛冶関連 遺構・遺物

5区南西側では、鉄のスラグを充填した土坑約20基が、10m四方の狭い範囲に集中している。土坑は長さ約1m、幅0.6m、深さ0.5mの隅丸方形で、スラグの廃棄土坑とみられる。直径約3mの大型土坑SX1001からは1.4tものスラグが出土している。スラグの出土総量は2.1tにのぼる。このうち4点を和鋼博物館に分析委託した結果、砂鉄系鍛錬鍛冶滓であり、鍛造剥片 粒状滓も確認できたことから、小鍛冶に伴うスラグを廃棄したものとみられる。スラグの質 量から大規模 長期にわたる操業であったことが窺える。

まとめ

今回検出された鋳造 鍛冶遺構と屋敷地の位置関係から、屋敷地の有力者がこれらの施設を管理していた可能性が高いとみられる。一集落内で定住性が窺われる鋳造 鍛冶施設と屋敷地が同時期に営まれた例は、四国では未確認である。堺や博多など都市部における鋳造 鍛冶の実態は解明されつつあるが、地方における鉄製品生産については不明部分が多く、中庄東遺跡での調査例は非常に重要な資料となることが期待される。(島田)



4 鋳型 (1. 鋤先 2. 鍋 3. 鋸口)



5 鍛冶関連遺構検出状況



6 鍛冶関連遺構 SK1015

たから だ で ぐち
宝田出口遺跡

所在地 阿南市宝田町出口50他

調査期間 2004年9月1日～2004年11月30日

担当者 林 篠原

遺跡概要 調査地は、阿南市宝田町から長生町にかけての桑野川の現堤防沿いに位置している。周辺には、白鳳期の創建とされる立禅庵寺があり、字「郡」には那賀郡衙が推定されている。調査は約3kmの事業予定地内に、64カ所の試掘トレンチを設定し掘削した。

調査成果 調査の結果、泉八幡神社（長生町）を中心とする地点において遺構面の存在を確認した。

中世の遺構面では、溝や柱穴などの遺構が散見され、鎌倉期の遺物が共存している。

中世の生活面の東半では、さらに縄文時代弥生時代の遺構面と遺物包含層が検出された。No39トレンチでは、弥生時代中期～後期の遺構 遺物がみられた。またNo38トレンチでは、縄文時代の焼土面周辺からサヌカイトの剥片がまとまって出土しており、遺構の存在が想定される。

その他の多くのトレンチでは、砂利採集による攪乱などの要因により遺構面は認められなかった。

まとめ 縄文 弥生 鎌倉の各年代の遺構面が確認されたことにより、平成16年度以降に本調査が実施される予定である。

遺構面の広がりや東限は明らかではないため、継続して試掘調査が必要である。

本調査の実施により、文献に記載の見られる庄園「竹原庄」との関連を明らかにすることなど大きな成果が期待される。 (林)



1 調査地点の位置（阿波富岡）



2 泉八幡神社（南より）



3 遺物出土状況

はちまんいぬやま 八万犬山遺跡

所在地 徳島市八万町大野113-1他

調査期間・担当者

2003年7月1日～2003年7月31日 林 篠原

2003年9月1日～2003年9月30日 藤川 前田

2004年3月1日～2004年3月31日 須崎 庄司

遺跡概要 八万犬山遺跡は、八万町大野地区に点在する通称「七ツ山」の東端の山塊「大崎山」の麓に位置する。七ツ山には、近世の記録ながら、古墳や箱式石棺の存在が記され、そのうち数基の古墳については現存が確認されている。

平成13年度以降の試掘調査において、大崎山北麓の地点で、縄文時代の遺物包含層が検出されており、同時代の遺構面とその広がりの確認を目的とした。

調査成果 大崎山の南東麓のトレンチでは、二枚貝の貝殻を含む層が拡がるが、年代が不明であり、遺構面も伴っていない。

大崎山北麓では、山裾に近い複数のトレンチで縄文土器の包含層を確認した。この層は、園瀬川によって運ばれた細かく砕かれた結晶片岩の砂によって形成されており、下部に遺構面の存在は認められない。

出土した土器の特徴は、器壁が薄く、明瞭な頸部のくびれを有し、隆帯に爪形文やヘラ先刺突文を伴うことである。縄文時代前期末大歳山式～中期前葉 船元式にかけてのものである。

まとめ 出土した土器は、徳島県では出土事例が少なく貴重なものである。前年度調査した由岐町田井遺跡が類例として注目される。

遺物の密度は決して低いとはいえ、近隣に集落などの存在が推定されるため、今後とも注意しておくべき地域の一つである。

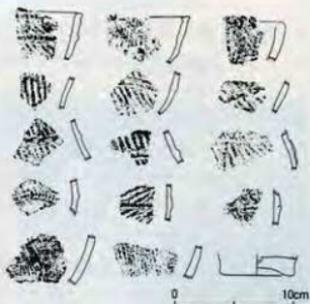
(藤川)



1 調査地点の位置 (徳島)



2 土層堆積状況



3 出土遺物 (縄文)

き き つばじ はいけだに
木岐遺跡・椿地遺跡・葉池谷遺跡

所在地 発掘調査一覧表参照

調査期間 2003年4月1日～2003年11月30日

担当者 林 篠原 須崎 庄司

一般国道55号日和佐道路建設工事

木岐遺跡 調査対象地は木岐港に流れ込む木岐川の左岸にあり、竹林などの木々が密集する山地と山裾の平坦地である。両地点とも包含層などを確認することが出来ず、本調査の必要はないと考える。(庄司)

圃場整備事業関連

椿地遺跡 調査対象地は、椿地川の右岸に位置している。18箇所に試掘トレンチを設定した。調査の結果、調査区東部の高台で遺構面は確認されないものの遺物包含層を確認した。遺物は瓦器や須恵器など鎌倉時代のもので、川の氾濫に伴って堆積したものであり、本調査の必要はないと判断した。(庄司)

葉池谷遺跡 調査地点は桑野川に臨む尾根上の標高27mに位置する。多くのトレンチでは、階段状の間壁を受けているため遺構面は残存しないが、尾根先端のトレンチの斜面部で縄文時代の遺構が確認された。遺構は住居1棟と小穴1基である。住居は一辺2m余の不整形を呈し、柱穴2基を伴う。炉 貯蔵穴は未確認。床面中央付近に台石などが置かれており、周辺からはチャート サヌカイトのチップが集積的に出土した。出土した土器から縄文時代中期のものとみられるが、混入もあり検討の余地を残す。剥片石器のうち石鏃はサヌカイト チャートがありチャートが主流を占める。逆にチップはサヌカイトが多い。

今回の調査範囲では、遺構数には恵まれないが、石器石材の流通パターンが判明するなどの成果を上げた。県南部の縄文文化を語る好資料といえる。(林)



1 調査地点の位置 (日和佐)



2 調査地点の位置 (阿波富岡)



3 調査地点の位置 (阿波富岡)

みやめん
宮免遺跡

所在地 小松島市大林町宮免152-1 他

調査期間 2004年1月5日～2月29日

調査担当 須崎 庄司

調査概要 小松島市南部では、東西に走る2つの山地に挟まれた楔形の平地が湾に向かって開き、湾口付近には独立小丘陵が点在する。本遺跡はそのような独立小丘陵の1つの南縁に広がる、海拔約1.5mの微高地上に立地する。調査の結果、平安時代の掘立柱建物や鎌倉時代の溝などを伴う遺構面1面を確認した。

掘立柱建物 3棟を確認した。SA1002の柱穴は、直径25～40cmの円形の掘り方に、20～30cm大の礎石を持つ。1間は約2.4m、棟方向N-37°-Eと推測されるが、構築年代は不明である。

SA1003の柱穴は1辺60～80cmの隅丸方形もしくは楕円形の掘り方に、礎石が配されている。そのほとんどが調査区外にあって全長は不明だが、1間は約1.6m、棟方向はN-23°-Eと推測される。構築は平安時代とみられる。

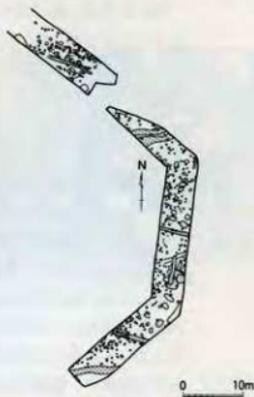
溝・自然流路 1区ではN-12°-E、N-50°-Wの2方向を基準とし、2区 4区では、N-40°-Eを基準とする溝が多くみられた。構築はほとんどが鎌倉時代と考えられるが、一部平安時代に遡る可能性がある。また2-1区以南では、調査区を分断する自然流路がみられた。小さな筋状の流れを周囲にいくつも形成し、古代から中世までの遺物が含まれていた。

井戸 1区では井戸が5基確認できた。SE1001は1辺約2mの隅丸方形の掘り方内に、1辺約10cmの角材を方形に配して井桁としていた。井筒は刎抜きで、直径約80～90cm、深さ約1.4mが残存していた。

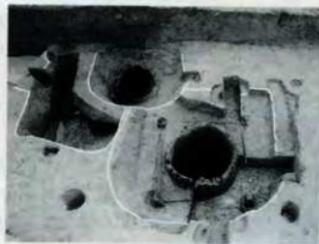
SE1002は1辺約1.5mの隅丸方形の掘り方を持つ。井桁 井筒ともに残存せず、焼却灰の堆積する層がみられた。瓦器碗や下駄が出



1 調査地点の位置 (阿波富岡)



2 1区遺構配置図



3 1区SE検出状況

土した。

SE1003は1辺約1.4mの隅丸方形の掘り方を持つ。井筒は桶胴で、3段に分けて構築されていた。直径は上部で約40cm、下部で約26cmであった。井筒内から墨書木札1枚が出土している。

SE1004は長軸1.3m、短軸1mの隅丸方形の掘り方を持つ。方形に角材を配して井桁を構築し、その中央に直径約40cmの曲げ物を配して井筒としていた。

SE1005は長軸約1.5m、短軸約1.3mの楕円形の掘り方中央を持つ。井筒は桶胴で、2段に分けて構築されていた。上段の直径は28cm、下段の直径は24cmであった。

構築年代は、SE1001が平安時代、他は鎌倉時代とみられ、SE1003は室町時代後期に廃絶された可能性が高い。

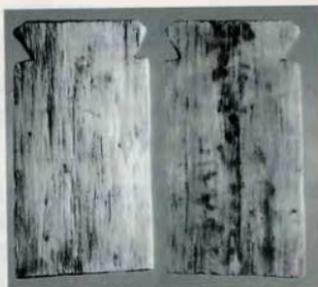
墨書木札

SE1003から出土した。やや厚みのある板材を使用し、上端部に一對の切欠きを入れる。ほぼ完存し、長さ9cm、幅4.7cm、厚さ5mmを測る。表面に墨書が認められ、「□□□二十七□」と読めるが、鮮明ではない。

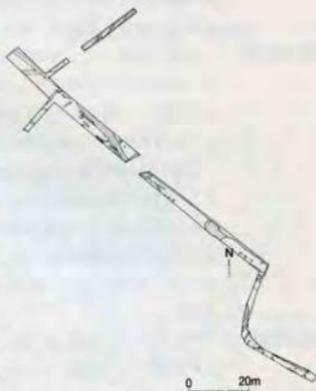
まとめ

今回の調査で確認できた遺構のうち、平安時代のものは少なく、遺物のほとんどは流路や溝の埋土中から出土した。一方、鎌倉時代の遺構 遺物は、ほぼすべての調査区で確認できている。これは集落が形成され始めたのは平安時代で、鎌倉時代に規模が拡大したことを表したものと考えられる。決して広いとは言えない微高地において、鎌倉時代に溝で区画された集落が営まれていたこと、またその集落がいくつかに分かれていた可能性を持つことは興味深い。

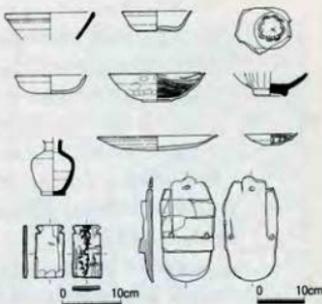
近年、立江町、大林町周辺で発掘調査が続き、この地域の歴史が少しずつ明らかになりつつある。宮免遺跡、中村遺跡、立江馬淵柳ノ内遺跡など、距離的にも時代的にも近いこれらの遺跡は、関連づけて検討することが必要となるだろう。(須崎)



4 墨書木札 (赤外線写真)



5 2区・4区遺構配置図



6 出土遺物

こうざはいじ 合蔵廃寺跡遺跡

所在地 三好郡三加茂町中庄669-2 他
調査期間 2003年10月1日～2003年12月2日
担当者 前田綾 藤川

調査概要

調査地は三加茂町域に広がる扇状地上に立地しており、周辺には条里制地割が残存している。瓦が採集されており、古代寺院「合蔵廃寺」(中庄廃寺)や官衙の可能性が想定されてきた。

13ヶ所のトレンチにより発掘調査を実施したが、地点により状況が異なる。中央付近では加茂谷川による砂礫堆積層が厚く、東に向かうと砂礫層は薄くなり上面に中世の遺構面が確認される。西寄りでは砂礫層はなく、明瞭な遺物包含層 遺構面が検出された。

主な遺構

6号溝(SD1006)は幅70cm、深さ30cm。方位がN-12°-Eであり、条里方向に一致する。8世紀中頃の土師器 須恵器 瓦類が出土した。1号住居(SB1001)は一辺約5mに復元される方形竪穴住居で、北壁に沿って竈を造り付け外側に煙道が延びる。7世紀中頃。

主な遺物

弥生土器 須恵器 土師器 瓦が出土している。瓦が最も多く、平瓦 丸瓦などがあり、複弁八葉蓮華文軒丸瓦と重弧文軒平瓦の組合せの「川原寺式」。軒丸瓦の外縁の鋸歯文は線表現による。

まとめ

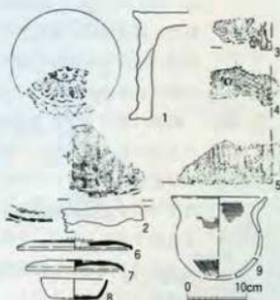
調査の結果、大量の瓦は出土したものの、寺院の存在を証明するものとならなかった。しかし、区画目的とみられる溝(6号溝)が検出されたことなどより、当初の想定(字「合蔵東」)よりも西側の一角(字「合蔵」)が寺域の有力な候補地となった。また、調査地の南西方向にかけて弥生時代後期-古墳時代前期と飛鳥時代の集落の存在も想定できる。今後の周辺地点の調査に期待したい。(藤川)



1 調査地点の位置(池田)



2 遺物出土状況



3 出土遺物

しげ きよ
重 清 城 跡

所在地 美馬郡美馬町重清字城52-1 他
調査期間 2003年12月1日～2004年1月31日
担当者 前田綾 藤川

遺跡概要 重清城は美馬町西部、吉野川により形成された河岸段丘上に位置する。鎌倉時代の築城との伝承があり、小笠原氏の居城となる。戦国期に長宗我部氏の四国征伐に際して、激しい合戦の舞台となった。

城域の地形測量およびトレンチによる発掘調査を実施した。

調査概要 平面ヒョウタン形の主郭と西に張り出す副郭からなる。主郭の西と南は二重の堀と土塁によって、北と西は急峻な崖と土塁によって囲まれる。主郭の規模は南北60m 東西44mを測り、面積は2,254㎡である。南東部分の堀土塁が方形に張り出しており、槽の跡と考えられている。

発掘調査は城南側3カ所と副郭4ヶ所のトレンチによって実施した。南側のトレンチでは、削平された堀と土塁の痕跡が検出され、14～15世紀を中心とする遺物が出土した。西側のトレンチでは、土塁の外側に幅2.4mの堀切があり、平坦面は盛土により形成された。調査範囲が限定されていたために、主郭内の遺構や築城期に伴う遺物は確認することができなかった。

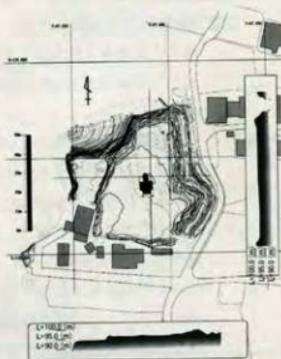
まとめ 阿波における中世城館は総数300を超えるともいわれる。しかし、そのほとんどの実態は軍記物語や伝承レベルにとどまっている。今回の調査では、発掘によって埋もれた遺構を確認するとともに、文献や周辺の遺構などもあわせて調査し、戦国期の城館を史実の中に位置づけることを試みた点に大きな意義があった。(藤川)



1 調査地点の位置 (胎町)



2 堀完掘状況



3 重清城跡の地形

つか あまづか カニ塚古墳・尼塚古墳

所在地 鳴門市大津町大代1121-2他
調査期間 2004年2月1日～2004年3月31日
担当者 前田綾 藤川

遺跡概要 2基の古墳は「鳴門 板野古墳群」と仮称される広域古墳群にあり、前方後円墳 大代古墳を盟主墳とする群中でも東端の支群に属する。地形測量 地中レーダー探査 トレンチ調査を実施した。

尼塚古墳は大正年間に削平され現在は原形をとどめないが、近世の絵図などの記録から存在は知られており、実態の確認が今回の調査を行う上での主目的の一つである。

カニ塚古墳 墳丘径31m、高さ3.4mを測る。かつて瑪瑙製勾玉が表採されているが、主体部構造は不明。幅4mの周濠が巡り、周濠内に転落した石材と埴輪片から埴輪列と葺石を伴っていたと推定される。埴輪には円筒と朝顔があり、いずれもハケ調整が省略されており、赤彩される個体がある。5世紀後葉。

尼塚古墳 復元墳丘径37mで、県下初確認の二重の周濠を伴う。墳丘規模も円墳としては県下2番目のもの。周濠幅は内側6m、外側3mの規模がある。墳丘裾には外区列石が巡る。周濠内の状況から、埴輪列と葺石を伴っていたと推定される。埴輪には円筒と家形があり、円筒の器面は二次調整としてB種ヨコハケを施す。5世紀後半。

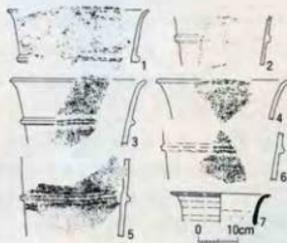
まとめ これまで系譜関係が明らかでなかったカニ塚古墳は、大代古墳が発見されたことによって群として位置づけることが可能となった。大代古墳は香川県の石材を用いた石棺を収めており、その立地をも併せると海上交通に関連が強いと考えられる。5世紀後半には大形円墳が集中的に築かれ、前方後円墳の築造秩序を知る上で貴重な成果である。(藤川)



1 調査地点の位置 (徳島)



2 遺物出土状況



3 出土遺物

遺跡地図整備事業

- 調査地** 鳴門市、板野郡藍住町、板野町、上板町、吉野町、土成町、阿波郡市場町、阿波町
- 調査期間** 2003年4月1日～2004年3月31日
- 担当者** 栗林

事業概要 昨年度に引き続き、本事業は国庫補助対象の事業であり、徳島県教育委員会の委託を受け、財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施し、県内各市町村教育委員会にも協力を得ている。

地図作成状況 県下50市町村の地形図をデジタル化し、この地図上に遺跡位置情報等の入力を行っている。また、平成12～16年度の分布調査対象市町村の遺跡考古学データを入力している。

分布調査成果 今年度は約46km²を分布調査した。松茂町を除くすべての市町村で、中世以前の遺物が採集されている。今年度の分布調査成果データと既存の考古学的データからすると、鳴門市大麻町と板野町、上板町、吉野町、土成町、市場町、阿波町は、縄文時代～中世の遺跡が、遺存状態良好な形で存在することが予想される。藍住町では中世の遺跡を中心に存在することが予想される。さらに、吉野川北岸の丘陵沿いでは、サヌカイト剥片を採集できる地点が、数ヶ所展開しており、縄文時代や旧石器時代の遺跡が存在することが十分に考えられる。

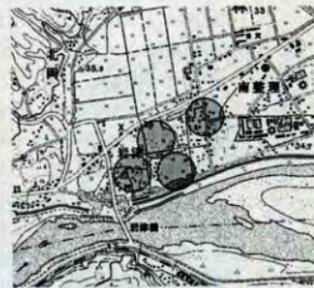
まとめ これらのデータをもとに、平成17年度刊行の『徳島県遺跡地図』に掲載すべき遺跡範囲の認定作業を行う。また『遺跡台帳』の製作も併行して行う。(栗林)



1 鳴門市遺物集中地点 (板東)



2 藍住町遺物集中地点 (板東)



3 阿波町遺物集中地点 (脇町)

IV 整理事業報告

今年度は、四国縦貫自動車道第11次区間(美馬～川之江)建設関連、四国横断自動車道(鳴門～板野)建設関連、一般国道192号線徳島南環状道路改築事業関連、一般公共事業関連など、8事業に伴う20遺跡の整理作業を行い、担当研究員20人、整理作業員延べ24,000人が従事した。

四国縦貫自動車道(美馬～川之江)建設に伴う大柿遺跡と東原遺跡では報告書の刊行を行った。また、井出上遺跡 西原遺跡では、報告書刊行に向けて原稿執筆までの整理作業を行った。

四国横断自動車道(鳴門～板野)建設関連では、3年間の整理作業の2年目を迎えた。本年度は、はちまき山遺跡他5遺跡の洗浄、注記、接合復元、遺物実測作業を行った。

一般国道192号線徳島南環状道路改築事業に伴う矢野遺跡では、報告書(弥生 古代篇)刊行に向けて、遺物実測とトレースを行った。

一般公共事業関連の町口遺跡では、平成10年から平成14年にかけて実施した発掘調査において確認された、古代から近世にかけての遺構及び遺物について整理作業を行い、報告書を刊行した。

その他の遺跡の整理概要については一覧に表示した。

出土品整理業務一覧表

事業名	遺跡名	所在地	原因者	整理期間	整理担当者	遺跡の概要	整理概要	備考
四国縦貫自動車道	大谷尻	三好郡三好町大字勢力字2890-1他	日本道路公団 四国支社	2003/4/1～ 2004/3/31	豊田	弥生～近世の集落	国版作成まで	報告書は平成16年度に刊行予定
		中世～近世の集落				国版作成まで		
	お城西屋敷	美馬郡美馬町中西原西原61-1他			小泉	弥生～近世の集落	報告書刊行	報告書は平成15年度に刊行
	東原	三好郡三好町大字足代字東原460-1他			小泉	縄文～近世の集落	国版作成まで	
	覚川	美馬郡美馬町字覚川45他			大北	弥生後期の集落	原稿執筆まで	報告書は平成16年度に刊行予定
	西原	三好郡三好町大字足代字西原768他			大北	弥生～古代の集落	原稿執筆まで	報告書は平成16年度に刊行予定
	井出上	三好郡井川町西井川1490他			田川	弥生～近世の集落	国版作成まで	
	相知	三好郡井川町西井川字相知421他			田川	弥生～近世の集落	国版作成まで	
	大柿	三好郡三好町大字長岡字カワラケメ2他			氏家・植地 前田・岸井 北山・貞野	弥生～中世の集落 生産遺跡	国版作成まで	報告書(古墳篇)は平成15年度に刊行
	四国横断自動車道	はちまき山			鳴門市大麻町字松西山谷17-1他	日本道路公団 四国支社	2003/4/1～ 2004/3/31	原
松高巖谷古墳群		鳴門市大麻町松字高巖1他	弥生～古墳の古墳群	原稿執筆まで				
西山谷古墳群		鳴門市大麻町大字西山谷15-2他	前期～中期の古墳群					
日開谷古墳群		鳴門市大麻町大字日開谷484-2他	前期～中期の古墳群					
辺路		鳴門市天津町大字辺路832他	縄文～中世の自然遺物					
かみヶ谷古墳群		鳴門市大麻町萩原字カガガ4他	弥生の高地性集落					
一般国道192号線 徳島南環状道路改築事業	矢野	徳島市南町南矢野字青木401-1他	国土交通省 四国地方整備局	2003/4/1～ 2004/3/31	近藤 山本	縄文～中世の集落	国版作成まで	
道路改築事業 (宮川内中島停車場線)	町口	板野郡吉野町西条字町133-3他	道路建設課	2003/4/1～ 2003/9/30	久保隆	古代～近世の集落	報告書刊行	報告書は平成15年度に刊行
県代行島下島路改築事業 (町道光下新町線)	大柿	三好郡三好町長岡字油田228-1他	道路保全課	2003/4/1～ 2004/3/31	棚次 久保隆	弥生～近世の水田	国版作成まで	報告書は平成16年度に刊行予定
道路改良事業 (出口太刀野線)	中庄東	三好郡三好町中庄431-1他	道路建設課	2003/4/1～ 2004/3/31	幸泉	古代の官衙	国版作成まで	報告書は平成16年度に刊行予定
徳島県立文学書道館 整備事業	中前川町2丁目	徳島市中前川町2丁目21他	文化国際課	2003/4/1～ 2004/3/31	喜多	近世武家屋敷	国版作成まで	報告書は平成16年度に刊行予定
徳島県立城東高等学校 校舎改築事業	中徳高1丁目	徳島市中徳高町1丁目5他	教育委員会 教育総務課	2003/4/1～ 2004/3/31	高橋 田所	近世武家屋敷	国版作成まで	報告書は平成16年度に刊行予定

V 埋蔵文化財センターの活動

平成15年度の普及啓発活動は、従来の業務を継承しながら、来館団体の体験学習の充実のために「火おこし」「石器づくり」に加え、年度後半には新規に「勾玉づくり」を開始した。

展示部門は、常設展示室に観音寺木簡14点（レプリカ）を新に展示し、合計21点の木簡が勢揃いすることになった。また、実習室、図書閲覧室の管理運営に加え、団体来館の多くが体験活動を希望し、「火おこし体験」を実施してきた。

企画展としては、恒例の速報展と4年目となる移動展を開催した。

その他、寺山遺跡をはじめ4遺跡の現地説明会、各種研修の受け入れ、各種研究会への参加等の対外活動を行った。

資料の活用面では、39件の貸し出し（実見 実測含む）があった。

本年度の来観者数は、団体が前年度を上回っているが、一般は減少していた。

1 速報展

2003埋蔵文化財速報展は、海部郡由岐町での道路建設に伴う発掘調査で、縄文時代前期末～中期初頭（約5,000年前）の遺構と遺物が県内で初めて出土した由岐町田井遺跡をはじめ、7遺跡の展示を行った。

また展示遺跡に関連した調査成果報告会・展示解説および講演会を行い大盛況であった。特に、由岐町からは団体が参加してくれるなど住民の埋蔵文化財に対する熱意を感じる事ができた。遺跡体験見学会では、遺跡の見学、遺物にふれる、発掘体験に加え火おこし体験を行い好評であった。

各関連行事の状況は以下の通りである。

○会期 7月22日（火）～8月31日（日）

○期間中の来観者数 954名

速報展関連行事

(1) 調査成果報告会・展示説明・講演会

第1回

○日時 7月26日（土）13:00～15:20

○遺跡名 ①立江柳ノ内遺跡

立江馬淵遺跡 須崎研究員

②敷地遺跡 大橋研究員

③中徳島町1丁目遺跡 原主任研究員

○参加者 89名

2回目

○日時 8月2日（土）13:00～14:40

○遺跡名 ①寺山遺跡 原主任研究員

②中庄東遺跡 島田研究員

○参加者 55名



企画展展示風景

3 回目

- 日 時 8月3日(日) 13 00~15 30
- 遺跡名 ①由岐町田井遺跡 林研究員
- 講演会 「約5,000年前の縄文文化と由岐町田井遺跡」
- 講 師 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
平城宮跡発掘調査部長 岡村道雄氏
- 参加者 134名

(2) 古代体験会

- 日 時 8月24日(日) 10 00~12 00
- 場 所 体験広場
- 内 容 石器づくり (大橋研究員、幸泉研究員、島巡課長、貞野係長)
火おこし (普及係 黒川、山内、関本)
- 参加者 29名(小学生14、中学生1、一般14)

(3) 遺跡体験見学会

- 日 時 8月28日(木) 9 30~11 40
- 場 所 徳島環状線国府工区 敷地遺跡(徳島市国府町敷地)
担 当 大橋研究員、敷地遺跡研究員、作業員他、普及係
- 参加者 30名
- 日 程
 - ~ 9 30 受 付
 - 9 30~9 40 開会挨拶(新居課長)
 - 9 40~9 50 発掘調査の概要説明(普及)
 - 9 50~10 30 遺物ふれあいタイム(普及)
火おこし体験活動(普及)
 - 10 30~10 40 敷地遺跡説明(敷地遺跡 大橋)
 - 10 40~11 30 発掘体験(敷地遺跡)
 - 11 30~11 40 閉会挨拶(島巡課長)

(4) 2003埋蔵文化財移動展 小松島展

- 会 場 ふれあいセンター立江
- 会 期 11月1日(土)~11月15日(土) 14日間
11月10日(月)休館
- 来観者数 375名
- 展示内容
小松島市内の遺跡に関する資料
立江柳ノ内遺跡 立江馬渡遺跡

前山遺跡 前山古墳

2002年度発掘調査成果より

由岐町田井遺跡 (海部郡由岐町)

寺山遺跡 埋納銭出土状況レプリカ (徳島市)

中徳島町1丁目遺跡 (徳島市)

中庄東遺跡 (三好郡三加茂町)

特別展示

突線装安禰文銅鐸一矢野銅鐸一レプリカ (徳島市)



小松島市移動展展示風景

○関連イベント 11月9日(日) 13:00~15:30

調査成果報告会 展示説明

立江柳ノ内遺跡 立江馬溝遺跡 須崎研究員

講演会 講師 調査課 藤川調査第2係長

演題「史料と発掘からわかる古代の阿波国」

○参加者数 58名

2 発掘現場における普及啓発活動

(1) 現地説明会

遺跡名	寺山遺跡
期日	6月14日(土)
内容	古墳時代、奈良～平安時代、鎌倉時代、室町時代にかけての河川集落跡の公開と解説
参加人数	221名

遺跡名	中庄東遺跡
期日	11月8日(土)
内容	石積みにより囲まれた室町時代の屋敷地とそれに伴う鍛冶・鑄造関連遺物の公開と解説
参加人数	200名

遺跡名	重清城跡
期日	1月24日(土)
内容	戦国期の合戦の舞台となった城郭の濠・土塁などの遺構と遺物の公開と解説
参加人数	200名

遺跡名	敷地遺跡
期日	3月6日(土)
内容	古墳～平安時代の集落と水田、室町時代の柿経の公開と解説
参加人数	178名

遺跡名	カニ塚古墳 尼塚古墳
期日	3月20日(土)
内容	古墳時代中期の円墳、カニ塚古墳と失われた尼塚古墳の遺構と遺物の公開と解説
参加人数	130名

(2) 学校による発掘現場の見学

遺跡名	寺山遺跡
期日	5月16日(金)
参加者	上八万小学校 85名
内容	遺構 遺物見学説明

遺跡名	カニ塚古墳 尼塚古墳
期日	3月4日(木)
参加者	大津西小学校 57名
内容	遺構 遺物見学説明



現地説明会(敷地遺跡)

3 来館者

(1) 月別来観者数一覧

月	小学生	中学生	高校生	一般	計
4月	159	4	0	97	260
5月	352	0	1	139	492
6月	153	60	192	256	661
7月	49	9	40	269	367
8月	120	20	21	544	705
9月	15	25	0	164	204
10月	374	0	0	655	1029
11月	321	3	5	361	690
12月	5	0	14	153	172
1月	19	1	3	188	211
2月	21	0	0	133	154
3月	31	2	2	427	462
計	1,619	124	278	3,386	5,407



火おこし体験

(2) 来館団体見学および体験活動

	利用団体	人数	期日	見学 体験活動内容
1	藍住南小学校 6年2組	32名	4月15日(火)	ピ展 実 火おこし
2	藍住南小学校 6年3組	31名	4月16日(水)	ピ展 実 火おこし
3	藍住南小学校 6年1組	31名	4月18日(金)	ピ展 実 火おこし
4	八万南小学校 6年	114名	5月2日(木)	ピ展 実 歴史文化公園
5	明神小学校 6年	39名	5月13日(火)	ピ展 実 火おこし
6	堀江北小学校 5 6年	51名	5月16日(金)	ピ展 実 火おこし
7	板野南小学校 6年	36名	5月21日(水)	ピ展 実 火おこし

ピ ピアオ 展 展示室 実 実習室

	利用団体	人数	期 日	見学 体験活動内容
8	沖ノ洲小学校 5年	93名	5月23日(金)	ビ 展 実 火おこし
9	学島小学校 3年～5年	85名	6月3日(火)	ビ 展 実 火おこし
10	山城中学校 3年	50名	6月6日(金)	展 実 火おこし
11	伊沢小学校 5年	49名	6月6日(金)	ビ 展 実 火おこし
12	四国学院大学	30名	6月7日(土)	展 実
*	板野高校 23HR	38名	6月10日(火)	講義 展 実 火おこし
*	板野高校 24HR	37名	6月11日(水)	講義 展 実 火おこし
13	立命館大学	34名	6月13日(金)	展 実
*	板野高校 21HR	38名	6月19日(木)	講義 展 実 火おこし
*	板野高校 25HR	37名	6月24日(火)	講義 展 実 火おこし
*	板野高校 22HR	40名	6月26日(木)	講義 展 実 火おこし
14	種野小学校	8名	8月29日(金)	展 実 火おこし 石器づくり
15	シルバー大学校鳴門校	40名	10月2日(木)	ビ 展 実 火おこし
16	シルバー大学校徳島校	120名	10月3日(金)	ビ 展 実 火おこし(午前)
17	シルバー大学校徳島校	120名	10月3日(金)	ビ 展 実 火おこし(午後)
18	日和佐小学校 6年	38名	10月16日(木)	ビ 展 実 火おこし
19	藍住東小学校 6年	75名	10月19日(日)	火おこし 石器づくり
20	板野東小学校 6年	66名	10月21日(火)	ビ 展 実 火おこし
21	八万小学校 6年	128名	10月24日(金)	ビ 展 実 火おこし
22	椿小学校 3年～6年	41名	10月24日(金)	展 実 火おこし
23	北井上小学校 6年	56名	10月24日(金)	ビ 展 実 火おこし
24	シルバー大学校小松島校	30名	10月28日(火)	ビ 展 実 火おこし(午前)
25	シルバー大学校三加茂校	30名	10月28日(火)	ビ 展 実 火おこし(午後)
26	シルバー大学校穴吹校	30名	10月29日(水)	ビ 展 実 火おこし
27	シルバー大学校鳴島校	50名	10月30日(木)	ビ 展 実 火おこし
28	伊豫歴史文化の会	40名	11月9日(日)	展 実
29	市場小学校 6年	47名	11月19日(木)	ビ 展 実
30	伊沢小学校 6年	48名	11月21日(金)	ビ 展 実
31	ふれあい考古学教室	55名	11月23日(日)	展 実
32	国際交流サービス	33名	12月11日(木)	展 実 整理作業見学
33	山川町教育委員会	17名	1月24日(土)	展 実 火おこし
*	辻高校	36名	2月17日(火)	講義 遺物

●印(外部講師招聘事業)

4 各種研修の受託

期 日	研 修 会 名	内 容	参加人数
8月1日(金)	初任者研修講座(企業等研修)	講話 展示見学 整理、発掘現場体験	25名
8月6日(水) 7日(木)	インターンシップ(鳴門高校2年)	講話 普及 整理 調査業務体験	2名
9月17日(水)	第1回市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会	～市町村の史跡整備の現状について～ 現地研修(敷地道跡) 事例報告	29名
9月24日(水) 25日(木) 26日(金)	職場体験学習(加茂名中学校2年)	普及業務体験 整理業務体験 調査業務体験	9名
12月16日(火) 17日(水)	インターンシップ (板野高校1年)	講話 普及 整理 調査業務体験	6名
1月20日(火)	第2回市町村埋蔵文化財担当専門職員研修会	徳島県下における縄文時代研究の現状と仮題 縄文に光を照らす 三内丸山遺跡の保存と活用	44名

5 職員の対外活動

期 日	内 容	参 加 者
6/12、13	全国埋蔵文化財法人連絡協議会	西村 和博 富本 輝仁 貞野 雅己
8/28	四国埋蔵文化財法人実務担当者会	富本 輝仁 栗林 誠治
10/9 10	全理協中国 四国 九州ブロック会議	山本 高史 藤川 智之 貞野 雅己
10/23～25	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	西村 和博 坂尾 俊一 喜多 啓二
11/9	移動展講演会講師	藤川 智之
11/10～14	埋蔵文化財発掘技術者特別研修会「遺跡地図情報課程」	栗林 誠治
11/22、23	古代の土器研究会第7回シンポジウム	須崎 一幸
12/11、12	「発掘された日本列島2004」実行委員会の委嘱及び第1回実行委員会	西村 和博 貞野 雅己
12/20～22	日本旧石器学会設立総会 出土遺物の分類調査	氏家 敏之
1/14～17	埋蔵文化財担当職員等講習会	島添 賢二 富本 輝仁
2/17	外部講師招聘事業(辻高校)	田川 憲 大北 和美
2/23～27	埋蔵文化財発掘技術者特別研修	高橋 栄子
3/15～17	発掘された日本列島展実行委員会	西村 和博 布川 純子



インターンシップ風景(整理)



インターンシップ風景(調査)

6 移動教材セット利用及び出張授業状況

利用機関	期 間	活 動 内 容	備 考
沖ノ洲小学校 6年	4/10～4/11	授業での活用	貸出
上八万小学校 6年	4/14～4/18	授業での活用	貸出
高浦中学校 1年	4/21～5/2	選択科目での活用	貸出
加茂名南小学校 6年	5/9	授業参観日社会科授業での活用	出張
伊沢小学校 6年	4/21～4/25	授業での活用	貸出
石井中学校	5/12～5/31	授業での活用	貸出
城西高校	5/16～5/23	授業での活用	貸出
椿小学校 6年	6/4	授業での活用	出張
板野南小学校 6年	5/27～5/28	社会科 国工授業での活用	貸出
板野西小学校 6年	5/26	社会科 国工授業での活用	貸出
上勝中学校	6/15～6/26	授業での活用	貸出
北島中学校	5/31～6/7	授業での活用	出張
穴吹小学校 6年	7/10～7/18	授業での活用 火おこし	貸出
名西高校	9/9～9/10	文化祭展示 火おこし	貸出

7 考古資料の活用

No	貸 出 資 料	員数	貸出先(申請者)	掲載書籍/作品等	期 間
1	名東遺跡遺物写真	34	徳島市教育委員会	企画展展示 図録掲載	4/17～7/3
2	矢野銅鐸写真	1	徳島県立博物館	博物館ニュース掲載	5/1～5/15
3	名東遺跡石片写真	2	徳島県立博物館	博物館ニュース掲載	
4	中庄東遺跡(ネガアルバム)	10	国土交通省徳島河川事務所	国道論文集掲載	5/19～5/27
5	実習室遺物	10	辻 佳伸氏	総合学習教材	5/29～5/23
6	庄 鮎吹遺跡遺物写真	1	米澤 千代子	小松島一くらしの風景一掲載	6/3～6/17
7	掘ったでよ阿波古代の食器写真	1	米澤 千代子	小松島一くらしの風景一掲載	7/14
8	西山谷2号墳墳丘写真	1	熊畑山園	「季刊考古学」掲載	6/23～7/23
9	中島田遺跡木簡	3	大阪人権博物館	特別展図録掲載	9/9
10	黒谷川郡頭遺跡東阿波型土器	2	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター	企画展展示	7/29～10/6
11	新蔵1丁目遺跡出土遺物	11	徳島市立徳島城博物館	秋の企画展「城下町徳島の世界Ⅱ」出品	8/8～10/28
	南前川町1丁目遺跡出土遺物	24			
	中前川町2丁目遺跡出土遺物	24			
	中徳島町1丁目遺跡出土遺物	19			
12	蓮華谷3号墳土器写真	19	伊小学館	「考古資料大観」掲載	9/5～10/3
	矢野遺跡銅鐸出土状況	3			
13	中島田遺跡特撰写真 実測図	3	堀 進	日本発掘出土特撰特撰掲載	9/1～9/30
14	萩原1号墳出土銅鏡写真ネガフィルム	3	大山 真光	銅鏡銘文の研究	9/1～9/30
15	新蔵町3丁目遺跡葉タバコ水指	1	松本 啓子	比較研究(実測 撮影)	10/3
16	大柿遺跡 大代遺跡写真	3	日本道路公団四国支社 山本 保宏	日本道路公団四国支社20周年記念誌掲載	9/3～12/31

No	貸出資料	冊数	貸出先(申請者)	掲載書籍/作品等	期 間
17	萩原古墳群 蓮華谷古墳群大代古墳群玉類実見	一括	大賀 克彦	博士論文作成資料	9/19
18	矢野遺跡出土縄文土器撮影	350	石田由紀子	修士論文作成	10/8、9
19	由岐町田井遺跡出土土物パネル	21	由岐町教育委員会	由岐町議会提示	9/24~10/10
20	観音寺遺跡出土土物(実見)	1	定森 秀夫	研究のため	10/3
21	矢野遺跡関連カラーポジ	5	徳島市教育委員会	徳島市考古資料館特別企画展図録掲載 展示パネル	10/3~10/17
22	名東遺跡、庄遺跡Ⅱ、貞光前田遺跡、出土石庖丁	35	木田 好則	卒業論文のための資料調査	10/23
23	寺山遺跡 現地説明会資料及び遺構 出土土物写真	3	株式会社ジャパン通信情報センター	「文化財出土情報」2003年12月号「各地の動向」	10/27~12/25
24	萩原1号墳土師器(実見)	40箱	蔵本 晋司	研究論文参考のため	10/17
25	由岐町田井遺跡出土土物 縄文土器 石器 石製品等	125	由岐町教育委員会	由岐町文化祭行事 田井遺跡展	11/18~12/5
26	等新蔵町1丁目遺跡、新蔵町3丁目遺跡出土土物近世陶磁器	17	土岐市美濃陶磁歴史館	特別展の展示資料調査	11/20
27	高瀬谷西山A遺跡人物埴輪草	1	株式会社小学館	「考古資料大観」掲載	11/20~16、4/30
28	女大柿遺跡(石庖丁70・石鏃60)	130	木田 好則	卒業論文のための資料調査	11/20
29	石井城ノ内遺跡 船吹遺跡	55	高島 芳弘	前山古墳群の報告書作成の参考	12/3
30	観音寺遺跡出土木簡カラーポジ	2	井上書房	中学生用歴史資料集に掲載	12/8~12/12
31	徳島城、新蔵町1丁目、3丁目遺跡	17	土岐市美濃陶磁歴史館	「特別展 織部の流通を探る一西日本」図録 リーフ掲載 論文掲載のため	12/16~5月中旬
32	敷地遺跡、古町遺跡、円通寺遺跡写真	3	石尾 和仁	論文掲載のため	12/26~3/31
33	蓮華谷2号墳鉄剣、蓮華谷1号墳鉄剣 鉄鏃、安楽寺谷1号墳鉄剣・鉄鏃、山田古墳群A鉄鏃、柿谷遺跡鉄鏃、高瀬谷西山B遺跡鉄鏃カラーポジ	16	徳島市教育委員会	企画展展示、図録掲載	1/15~3/30
34	大谷尻遺跡航空写真	17	三野町教育委員会		1/13~2/6
35	観音寺遺跡出土木簡写真	1	サントリー美術館	企画展図録	1/19~1/26
36	前山古墳他写真転載	12	徳島市教育委員会	企画展図録、展示パネル	1/26~2/10
37	重清城現地説明会資料	1	美馬町教育委員会	美馬町民広報	2/3~3/28
38	観音寺遺跡出土木簡写真	1	サントリー美術館	展示会パネル展示	3/1
39	銅鐸の埋納写真	1	世界思想社	「日本考古学を学ぶ人のために」	2/11~3/10 3/10~4/10

8 郷土教育教材整備事業

教材名	教材用DVDビデオ「古代のくらし」
内 容	① プロローグ(発掘 整理 復元) ② くらしを豊にした道具の発明
対 象	学校 社会教育
利用方法	貸出



教材用DVDビデオ「古代のくらし」

9 ホームページ管理

開設3年目

○アクセス数 5,656

○更新回数 21回

10 本年度受贈図書数 2,592冊

11 本年度刊行物

○徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第48集

【大柿遺跡Ⅱ 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告24】

○徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第49集

【東京遺跡 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告25】

○徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第50集

【町口遺跡 道路改築事業（宮川内牛島停車場線）関連埋蔵文化財発掘調査報告】

徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 15

平成15 (2003) 年度

平成16年6月30日

編集 発行 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2
TEL (088) 672-4545 FAX (088) 672-4550
印刷 徳島県教育印刷株式会社
〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目1-13